

平成25年6月  
国際統括官付

### サステナビリティ・サイエンスの推進について

「「サステナビリティ・サイエンス」に関するユネスコへの提言」を踏まえ、今後、国際社会においてサステナビリティ・サイエンスの重要性を主張していくにあたり、提唱国である我が国としても、サステナビリティ・サイエンスの推進に向けた具体的な方策等を整備するとともに、積極的に発信していくことが求められるため、それらを検討することが必要である。

#### <論点（案）>

- 今後、どのような取組を実施していくことが必要か。
- 既に国内で実施されている取組で、サステナビリティ・サイエンスの観点から捉え直すことができるものはどのようなものがあるか。
- サステナビリティ・サイエンスを推進していく上で、特に連携をはかっていくべき組織、機関等はどこか、また、どのような形での連携が望ましいか。  
(これまでの議論) ICSU、日本学術会議、国連大学、東京大学 IR3S・・・

#### <参考>

##### 1. 次期事業予算案（37C/5）自然科学分野

「科学政策インターフェイスの強化及びサステナビリティ・サイエンスの促進」期待される成果

Performance indicators	Benchmarks
The Science and Technology Alliance for Global Sustainability - the Future Earth Initiative operational	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 2014: The Science Plan, Conceptual Framework and Main Research Themes adopted, and the Future Earth Secretariat recruited and fully operational</li> <li>- 2015: The Work Plan of Future Earth adopted</li> <li>- 2016-2017: Implementation of the pilot research themes of Future Earth with particular view to those on water, biodiversity and ecosystem services, and the ocean</li> </ul>
The concept of sustainability science accepted in Member States and consolidated in the UN system and the post-2015 development agenda	At least ten Member States which have mainstreamed the sustainability science agenda in national policies and programmes

##### 2. ユネスコで実施されている既存事業

(例：IHP、MAB、IOC、MOST) (概要別添参照)

##### 3. 国際的な枠組み (例：フューチャー・アース) (概要別添参照)